

出前講座（JICA 北海道（札幌））実施概要

1. 開催日時：令和5年12月5日 10時00分～12時00分
2. 会場：JICA 北海道（札幌）セミナールーム
3. 講座概要：地域公共交通の活性化・再生について
4. 講座内容：
 - ・地域の公共交通について
 - ・R5 共創モデル実証プロジェクトの取組事例
 - ・自動運転技術について
 - ・ローカル鉄道の再構築

地域の公共交通を取り巻く環境

国土交通省

- 我が国の人口は、2050年には全国の居住地域の約半数(50%)以上減少との予測
- 近隣の中小店舗の減少、病院の統廃合等により、買い物、通院・通学など日常生活における「移動」の問題が深刻化。
- バート勤務なども含め共働き世帯比率が高まったこともあり高齢者の通院や児童の通学・習い事などに関して、家族による送迎の負担も増大。
- 高齢ドライバーによる自動車事故に関する関心が高まり、運転免許の自主返納の動きが進展する一方、自主返納後の移動手段に対する不安の声や、自主返納後に対する不安の声も。
- 都市圏内や地域間の交通については、インボンドの急速な回復やライフスタイルの変化（多様な働き方やQOL重視等）を踏まえた新たな対応の必要性。

将来の人口増減状況

2050年には全国の約半数(50%)以上減少との予測(2019年推計)

免許返納数の推移

(千円)

居住地域に対する不安（地域別）

公共交通の不足による生活の不便さや、高齢者の移動手段の確保が課題となっている地域が多い。

自動運転による地域公共交通実証調査事業

国土交通省

地域づくりの一環として行なうサービス等の自動運転化に伴う経費に対して、地方公共団体・民間団体等が、その費用負担を軽減するための当該経費の一部を助成する事業等に要する経費を補助し、経営面、技術面、社会的受容性等の実証を推進することで、自動運転技術を活用した持続可能な移動サービスを構築

<対象事業者>
地方公共団体（市町村）及び道路運送事業者等
※将来的には、自動運転技術を提供することが見込まれる事業者が参加予定

<補助対象経費> 定額補助（1.8億円を上回る）
・運転経費、運転員・自動運転システム管理員の人件費
※自動運転システムの開発、それに伴う車両改造、協議会・説明会開催経費など。

<実証運行の経費>
※相当程度長期にわたる運行を予定している場合に限り

<公募の状況>
・令和4年6月15日～7月20日の期間で全国の自治体から22件の応募があり、北海道からは上士幌町、沼田町、帯広市が応募
・応募22件のうち4件が採択され、北海道から**上士幌町が採択**された
・採択について、8月22日～24日を目途に事務局より自治体へ連絡 ※事務局はPwCコンサルティング合同会社

<上士幌町でのこれまでの実績>
・2017年より自動運転バスの実証に向けた実証実験を実施
・2019年より経費削減を目的とした自動運転の実証実験を実施
・2021年には公道での走行実証を実施
・事業者はBOLDREY（ボールドレイ）株式会社、車両はNAVY社 ARMA（全国で実証実験実績あり）を継続して活用

自動運転のレベル分け

上士幌町での実証実験の様子

5. 実施風景



6. 受講者の感想（一部抜粋）

- ・北海道の政策について、過去、課題、そしてどのように取り組んでいるのか、それらを知ることが出来ました。
- ・現在の交通問題を簡潔かつ明確に把握できる、詳細な資料。

他

（参考）R5 共創モデル実証プロジェクトの取組事例①

国土交通省

【教育×交通】 北海道土別市における取組

送迎サービス提供主体・共創のパートナー
◆送迎サービス提供主体：土別市 ◆共創パートナー：土別ハイヤー、土別市スポーツ協会等

取組の内容

- 部活動や習い事の送迎に利用できる「習い事応援タクシー」の実証運行を行うことで、交通手段を確保することによる教育機会の充実、及び保護者の負担軽減を図る。
- 1ヶ月乗り放題などの料金体系を設定し、今後の本格運行に向けて、持続可能な利用者負担のあり方を検証。
- 利用料金の一部にスポーツ協会の交差を充当することにより、利用者負担を軽減。

取組への期待する内容

交通手段がないことにより、部活動や習い事を断念せざるを得ない状況を改善するため、送迎に利用できる「習い事応援タクシー」を通じて保護者の負担軽減を図り、習い事に通い続けてもらえない子どもの教育機会の充実と、持続可能な料金体系の構築を目指す。

【事業スキーム】

【実施区域】

ローカル鉄道の再構築のイメージ【地域交通法】

国土交通省

鉄道の維持・高良化

- 設備整備：駅舎・ホームの改修、信号機・踏切の近代化、車両の更新
- 外部資源を活用した駅の活性化：観光連携、地域活性化
- 事業機運の見直し：乗客の増加、観光客の誘引
- 利便性向上：駅間短縮、ダイヤの改善

バス等への転換

- 旧RTVへの転換：路線の再編、車両の更新
- GX-DX対応車両等への転換：大型化、快適性の向上

設備整備

- 乗客の利便性向上：エレベーター・階段の設置
- バスの乗降の効率化

